

・岡山県岡山市立福田公民館 「現役バスガイドさんによる模擬旅行」

【内容】

リモートではなく、参加者が実際に公民館に集合し、映し出された画像を見ながら、プロのバスガイドの説明を受けることができる模擬旅行

ポイント①：館長とプロのバスガイドが十年来の友人

ポイント②：公民館利用者の高齢化が取り組みの背景にある。身体的な負担があっても参加可能

ポイント③：説明を高速道路からのスタートし、臨場感を出す。画像にもこだわる。

・石川県小松市公民館連合会 「ドローンを活用した地域活性化事業」

【内容】

「小松市公民館フェスタ」がコロナで中止となり、その代わりに発案された地域活性化事業。市内の観光マップにある各名所をドローンで空撮し、ホームページに掲載。動画自体は1分前後。

ポイント①：ラジコンの趣味を持つ ICT 改革課の職員との世間話から発展し、空撮を依頼。

ポイント②：外出自粛で疲れている中、動画を視聴して少しでも心を癒していただくとともに、自然を守り続けているボランティアや、そこに託されている思いも伝えられた。

・福岡県久留米市 「くるめオンライン公民館」

【内容】

ゴールデンウィークの限定2日間で、「オンライン公民館」を開催。合計11時間、12の企画を実施した。その後、多くの反響があったことから、毎週日曜日にオンライン公民館を継続して開催。9月10日の強い台風が来た際は、「オンライン避難所」も開設した。

ポイント①：住民の居場所として存在する安心感を、コロナ禍でも示す必要があると感じた。

ポイント②：つながりの濃かった10の市民団体がきっかけとなり、実現した。

ポイント③：内容が幅広くなるよう、SNSで企画を公募した。

ポイント④：最終的には月1回の開催とし、リアルとオンラインの両面から事業に取り組む。

・静岡県浜松市中区富塚協働センター 「あおぞら協働センター」

（沖縄県那覇市若狭公民館「パーラー公民館」）

【内容】

青空の下のもと、あえて「何もしない」をコンセプトとして掲げ、公園にパラソルを立て、そこに集まった人たちで、好きなことを自由にやらせてもらう

ポイント①：楽しい時間をみんなで共有し、「また来たいな」と思ってもらえる環境づくり。

ポイント②：常に出入りは自由にし、入りやすく、抜けやすい環境を設け、束縛しない。

ポイント③：主催者も参加者も、ゆるく、気軽に取り組み、顔の分かる関係づくりに取り組む。

ポイント④：子ども食堂や、マジック披露、工作などが組み合わせると、なお効果的である。